



2014年12月期 第1四半期財務・業績の概況(連結)

2014年5月8日

会社名 サントリーホールディングス株式会社 URL <http://www.suntory.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)佐治 信忠
 問合せ先責任者 (役職名)広報部長 (氏名)濱岡 智 広報部 TEL (03)5579-1150
 TEL (06)6346-0835

(百万円未満切捨て)

1. 2014年12月期第1四半期の連結業績(2014年1月1日～2014年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2014年12月期第1四半期	483,986	18.6	19,965	41.6	21,110	67.5	8,998	87.4
2013年12月期第1四半期	408,179	4.7	14,101	72.1	12,599	99.0	4,801	470.1

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2014年12月期第1四半期	13	19	-	-
2013年12月期第1四半期	7	04	-	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2014年12月期第1四半期	2,620,697	1,038,145	28.9
2013年12月期	2,374,070	1,056,726	32.3

(参考) 自己資本 2014年12月期第1四半期 757,918百万円 2013年12月期 768,011百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	円	円	円	円
2013年12月期	-	-	-	17 00	17 00
2014年12月期	-	-	-	-	-

(注) 2013年12月期配当の内訳 普通配当12円 特別配当5円

3. 2014年12月期の連結業績予想(2014年1月1日～2014年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	2,220,000	8.8	146,000	15.4	140,000	16.1	50,000	△74.4	73	29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は2014年5月1日にBeam Inc.の全株式を取得し、完全子会社化しました。

本株式取得に伴う当社グループの業績見通しへの影響につきましては現在算定中であるため、含めていません。

※ この四半期財務・業績の概況は、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は受けていません。

経営成績

1. 当第1四半期連結累計期間の概況

当第1四半期連結累計期間(2014年1月1日～2014年3月31日)の世界経済は、一部に弱さが見られるものの、全体としては回復基調で推移しました。わが国経済においても、企業収益の改善や個人消費の増加が見られるなど、景気は緩やかに回復しました。

こうした中、サントリーグループは、「ザ・プレミアム・モルツ」「金麦」「角瓶」「山崎」「白州」「サントリー天然水」「BOSS」「PEPSI」といった主要ブランドのマーケティング活動強化を中心に、積極的な取り組みを展開しました。その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高4,840億円(前年同期比118.6%)、営業利益200億円(同141.6%)、経常利益211億円(同167.5%)、四半期純利益90億円(同187.4%)となりました。

また、ビーム社との統合を推進するなど、グローバル化に向けた取り組みを進めました。

〈飲料・食品セグメント〉

サントリー食品インターナショナル(株)は、ブランド強化により需要を喚起し、国内・国際事業両輪で更なる成長を図りました。

国内事業では、重点ブランドの強化やコスト削減など、これまで進めてきた取り組みを継続・強化し、更なる利益成長に向けて一層強固な事業構造へと変革を進めました。

「サントリー天然水」は国内事業の中核ブランドとして、“清冽でおいしい水”“ナチュラル&ヘルシー”をブランド独自の価値として訴求し、販売数量を大幅に伸ばしました。「サントリー南アルプスの天然水 スパークリング」「同 レモン」は、無糖炭酸水市場の市場拡大にも貢献しました。「BOSS」は主力商品において、昨年来取り組んできたブランド強化活動が奏功し、販売数量が大幅に伸長しました。1月に発売した特定保健用食品「ボス グリーン」も売上増に貢献しました。「PEPSI」は、3月に中味・パッケージをリニューアルした「ペプシネックス ゼロ」の話題性ある広告宣伝活動も奏功し、販売数量が大きく伸長しました。健康志向の高まりを背景に注目を集める特定保健用食品は、当社が市場拡大を牽引し、「伊右衛門特茶」「ボス グリーン」「サントリー 黒烏龍茶」「サントリー 胡麻麦茶」「ペプシ スペシャル」合計で大幅に販売数量を伸ばしました。

国際事業では、各エリアにおける重点ブランドの更なる強化やコスト削減に加え、欧州、アジアでは今後の売上、利益の成長に向けた事業基盤の強化に取り組みました。

欧州では、フランスやスペインで主力ブランドの「Orangina」^{オランジーナ}「Schweppes」^{シュウエップス}に集中してマーケティング活動を実施したほか、英国の象徴的ブランドである「Lucozade」^{ルコゼード}「Ribena」^{ライビーナ}の製造・販売事業を譲り受けたLucozade Ribena Suntory Limited が事業を開始しました。また、欧州全体での成長及び事業の強化に向け、事業統括会社 Suntory Beverage & Food Europe Limited ^{ライ}を発足させました。オセアニアでは、主力のエナジードリンク「V」^Vの新フレーバー商品を投入するなど、ブランド強化に取り組みました。アジアでは、経済成長が続く各国において事業基盤の強化や、新商品の投入等による事業拡大に積極的に取り組みました。インドネシアでは、サントリーブランドの「MYTEA[ウーロン茶]」が好調だったほか、3月には国内で培った研究開発技術を活かしたコーヒー飲料「De' Koffie」^{デ' コフィ}を発売しました。ベトナムではサントリーブランドの「TEA+[ウーロン茶]」が

市場に浸透し、売上増に貢献しました。米州では、ノースカロライナ州を中心にペプシブランドの更なる販売強化に加え、営業や物流等、事業効率の改善を進めました。

その結果、飲料・食品セグメントの売上高は、2,696億円(前年同期比123.3%)となりました。

〈ビール・スピリッツセグメント〉

サントリー酒類(株)は、“プレミアム”をキーワードに掲げ、需要創造に向けた価値提案活動を強化しました。

ビール事業は、1,482万ケース^{※1}(前年同期比103.4%)と過去最高の販売数量を達成しました。「ザ・プレミアム・モルツ」は、お客様との接点拡大を推進し、ブランド力の向上を図った結果、311万ケース(前年同期比103.1%)となりました。新ジャンルでは、「金麦」シリーズが817万ケース(前年同期比115.6%)と大きく伸長しました。ノンアルコールビールテイスト飲料No.1ブランド^{※2}の「オールフリー」も、128万ケース(前年同期比115.2%)と大きく伸長しました。

※1 大瓶換算(1ケース=633ml×20本)・ノンアルコールビールテイスト飲料含む

※2 インタージMAI調べ ノンアルコールビールテイスト飲料ブランド 累計販売金額
2013年1月~12月(全国SM/CVS/酒DS/一般・業務用酒店計)

スピリッツ事業は、主要ブランドが好調に推移し、前年同期比117%の売上となりました。

ウイスキーは、主要ブランドが好調に推移し、前年同期比119%と好調に推移しました。「角瓶」は、コミュニケーションを刷新するなどブランド力の向上を図り、前年同期比127%と極めて好調に推移しました。国産プレミアムウイスキーは、前年同期比128%と大幅に伸長しました。なお、4月に世界的な酒類コンペティションで「響12年」がカテゴリー最優秀金賞を受賞しました。輸入ウイスキーは、「ジムビーム」「メーカーズマーク」「バランタイン」など主要ブランドでお客様接点の拡大を図りました。

RTDの販売数量は、前年同期比113%と好調に推移しました。「-196°C ストロングゼロ」は、〈DRY〉などが好調で前年同期比120%と大きく伸長したほか、「ほろよい」は、定番ラインナップの好調に加え新商品の投入が寄与し、同110%となりました。また、ハイボール缶は前年同期比118%となり市場を牽引しました。

RTS^{※3}は、「ふんわり鏡月」が極めて好調に推移し、「カクテルツアーズ」もご好評いただくなど、着実に新たな市場を創出しています。

※3 RTS(Ready To Serve):グラスにそそぐだけでカクテルなどの本格的な味わいが気軽に楽しめるお酒。

海外事業は、欧米を中心に「山崎」「白州」「響」ブランドの積極的なマーケティング活動を展開するなど、サントリーウイスキーのさらなる浸透に取り組みました。アジアでは、「角瓶」「ザ・プレミアム・モルツ」の販売を強化しました。

その結果、ビール・スピリッツセグメントの売上高は、1,278億円(前年同期比109.2%)となりました。

〈その他セグメント〉

サントリー(中国)ホールディングス有限公司は、ビール事業が好調に推移するとともに、飲料事業の主要ブランド「烏龍茶」が大きく伸長しました。

サントリーワインインターナショナル(株)は、前年同期比113%の売上となりました。「酸化防止剤無添加のおいしいワイン。」が前年同期比130%と極めて好調に推移したほか、国産ぶどう100%ワイン“日本ワイン”も堅調に推移しました。

サントリーウエルネス(株)は、「セサミン」シリーズや「グルコサミン&コンドロイチン」、スキンケア化粧品「F.A.G.E.^{エフアージュ}」等が伸長し、前年同期比120%の売上となりました。

これらの結果、その他セグメントの売上高は、866億円(前年同期比119.4%)となりました。

なお、国内売上高は3,419億円(前年同期比110.2%)、海外売上高は1,421億円(同145.1%)となりました。

当社は、創業以来、積極的に事業を展開するとともに、創業の精神である『利益三分主義』に基づき、文化・社会貢献、環境活動などにも取り組んでいます。また、『水と生きる SUNTORY』というコーポレートメッセージのもと、社会と自然との共生を目指したさまざまな活動を展開しています。

東日本大震災の復興支援活動は、これまで「漁業の復興支援」「未来を担う子どもたちの支援」「文化・スポーツを通じた支援」を柱に実施してきました。当第1四半期連結累計期間には、新たに東北の障がい者スポーツへの支援10億円を含む20億円の追加拠出を決定しました。これにより、震災以降累計では108億円の拠出となります。

環境活動では、生産工程での省エネルギー活動や、環境に配慮した容器包装の取り組みを推進しました。また、持続可能な地球環境を次代へ引き渡すことを目的に、2050年に向けた「サントリー環境ビジョン2050」を策定するとともに、「2020年目標」を新たに設定しました。水源涵養活動を展開しているサントリー「天然水の森」においては、国内工場で使用する地下水量の2倍の水を涵養するため、2020年までに面積を12,000haに拡大します。

2.通期の見通し

2014年12月期の売上高は、2兆2,200億円(前年同期比108.8%)、営業利益1,460億円(同115.4%)、経常利益1,400億円(同116.1%)、当期純利益500億円(同25.6%)を予定しています。

(当社は2014年5月1日にビーム社の全株式を取得し、完全子会社化しましたが、本株式取得に伴う当社グループの業績見通しへの影響につきましては現在算定中であるため、含めていません。)

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目 期 別	前連結会計年度 (2013年12月31日現在)	当第1四半期連結会計期間 (2014年3月31日現在)	増 減
	金 額	金 額	金 額
(資 産 の 部)			
I 流動資産	1,007,834	1,278,889	271,054
現金及び預金	418,654	668,903	250,249
受取手形及び売掛金	287,242	278,777	△8,464
たな卸資産	224,134	235,283	11,148
その他	78,679	96,716	18,037
貸倒引当金	△875	△791	83
II 固定資産	1,364,861	1,340,580	△24,280
1.有形固定資産	527,269	523,558	△3,710
建物及び構築物	148,760	147,753	△1,006
機械装置及び運搬具	180,555	177,497	△3,058
工具、器具及び備品	67,709	67,444	△264
土地	94,760	94,286	△474
その他	35,482	36,576	1,094
2.無形固定資産	650,413	635,317	△15,096
のれん	409,293	397,511	△11,781
商標権	184,942	182,836	△2,106
その他	56,177	54,968	△1,208
3.投資その他の資産	187,178	181,704	△5,473
投資有価証券	116,302	112,533	△3,768
その他	73,162	71,210	△1,951
貸倒引当金	△2,285	△2,039	246
III 繰延資産	1,374	1,227	△147
資 産 合 計	2,374,070	2,620,697	246,626

(単位:百万円)

科 目	期 別	前連結会計年度	当第1四半期連結会計期間	増 減
		(2013年12月31日現在)	(2014年3月31日現在)	
		金 額	金 額	金 額
(負 債 の 部)				
I 流動負債		760,029	736,494	△23,534
支払手形及び買掛金		93,703	104,337	10,633
電子記録債務		106,106	96,811	△9,295
短期借入金		83,428	145,226	61,798
1年内償還予定の社債		108,566	70,877	△37,689
未払酒税		46,412	28,026	△18,386
未払消費税等		10,791	10,531	△259
未払法人税等		34,392	10,087	△24,305
未払金		122,239	105,496	△16,742
未払費用		62,329	61,979	△349
賞与引当金		12,616	17,334	4,717
その他		79,442	85,786	6,343
II 固定負債		557,315	846,056	288,741
社債		64,700	63,700	△1,000
長期借入金		322,387	613,201	290,814
退職給付引当金		11,000	11,139	138
役員退職慰労引当金		298	220	△78
その他		158,928	157,795	△1,132
負債合計		1,317,344	1,582,551	265,206
(純 資 産 の 部)				
I 株主資本		711,624	709,025	△2,599
資本金		70,000	70,000	—
資本剰余金		△21,109	△21,109	—
利益剰余金		666,066	663,466	△2,599
自己株式		△3,332	△3,332	—
II その他の包括利益累計額		56,386	48,893	△7,493
その他有価証券評価差額金		20,611	18,230	△2,380
繰延ヘッジ損益		1,374	980	△394
為替換算調整勘定		34,400	29,682	△4,717
III 少数株主持分		288,714	280,227	△8,487
純資産合計		1,056,726	1,038,145	△18,580
負債純資産合計		2,374,070	2,620,697	246,626

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

期 別 科 目	前第1四半期連結累計期間 〔 自 2013年 1月 1日 〕 〔 至 2013年 3月31日 〕	当第1四半期連結累計期間 〔 自 2014年 1月 1日 〕 〔 至 2014年 3月31日 〕	増 減
	金 額	金 額	金 額
I 売 上 高	408,179	483,986	75,806
II 売 上 原 価	201,968	244,602	42,634
売 上 総 利 益	206,211	239,384	33,172
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	192,109	219,419	27,309
営 業 利 益	14,101	19,965	5,863
IV 営 業 外 収 益	866	4,545	3,679
受 取 利 息	199	351	151
受 取 配 当 金	45	3,456	3,411
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	147	—	△147
雑 収 入	473	738	264
V 営 業 外 費 用	2,367	3,400	1,032
支 払 利 息	1,964	2,386	421
雑 支 出	403	1,013	610
経 常 利 益	12,599	21,110	8,511
VI 特 別 利 益	1,110	148	△961
固 定 資 産 売 却 益	15	126	110
そ の 他	1,095	22	△1,072
VII 特 別 損 失	2,635	2,316	△318
固 定 資 産 廃 棄 損	874	924	49
組 織 再 編 関 連 費 用	1,183	1,237	53
そ の 他	577	154	△422
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 利 益	11,075	18,943	7,867
法 人 税 等	5,354	7,595	2,240
少 数 株 主 損 益 調 整 前 四 半 期 純 利 益	5,720	11,347	5,627
少 数 株 主 利 益	919	2,349	1,430
四 半 期 純 利 益	4,801	8,998	4,196

セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営陣が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は持株会社制を導入し、持株会社である当社の下、製品・サービス別の事業分野別に事業会社等を設置しています。各事業会社等は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。

したがって、当社グループは事業会社等を中心とした製品・サービス別のセグメントから構成され、「飲料・食品事業」、「ビール・スピリッツ事業」の2つを報告セグメントとしています。

各報告セグメントと「その他」の区分に属する主な製品・サービスの種類は以下のとおりです。

飲料・食品…………… 清涼飲料、健康飲料、加工食品 他
 ビール・スピリッツ…………… ビール類、ウイスキー、RTD、焼酎 他
 その他…………… 中国事業、ワイン、健康食品、アイスクリーム、外食、スポーツ、花 他

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自 2013年1月1日 至 2013年3月31日)

(単位:百万円)

	飲料・食品	ビール・スピリッツ	その他	計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	218,592	117,082	72,504	408,179	—	408,179
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,488	587	2,480	4,555	△ 4,555	—
計	220,081	117,669	74,984	412,735	△ 4,555	408,179
セグメント利益	12,897	2,862	5,351	21,110	△ 7,009	14,101

当第1四半期連結累計期間(自 2014年1月1日 至 2014年3月31日)

(単位:百万円)

	飲料・食品	ビール・スピリッツ	その他	計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	269,597	127,796	86,592	483,986	—	483,986
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,554	849	2,593	4,997	△ 4,997	—
計	271,152	128,646	89,185	488,984	△ 4,997	483,986
セグメント利益	13,995	6,072	6,960	27,028	△ 7,063	19,965

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれています。全社費用は、当社において発生するグループ管理費用です。それぞれの金額は次のとおりです。

前第1四半期連結累計期間	
セグメント利益の調整額	△ 7,009 百万円
各報告セグメントに配分していない全社費用	△ 7,026 百万円
セグメント間取引消去	17 百万円
当第1四半期連結累計期間	
セグメント利益の調整額	△ 7,063 百万円
各報告セグメントに配分していない全社費用	△ 7,079 百万円
セグメント間取引消去	16 百万円

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。